

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホームつつじの丘		
所在地	福岡県嘉麻市牛隈2510番地98		
自己評価作成日	平成26年3月9日	評価結果確定日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4092100041-00&PrCd=40&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様の思いを大切に、安心して生活が続けられるように優しく見守り、入居者様が自分らしく生活できるよう支援に努めている。
地域とのつきあいを大切に、ボランティア実習の積極的な受入や学校の行事などにも参加させていただいている。又、地区のゴミ拾い等も入居者様と一緒に参加し地域の一員として日常的に交流できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームつつじの丘」は、嘉麻市牛隈の新興住宅街の一角にある、デイサービスと併設型の2ユニットグループホームである。運営母体が共立病院に変わって5年経つが、地域との関係も良好であり、入居者も増えて安定した運営がなされている。近隣の地区も発展して周囲の開発も進んでいるが、一緒に住民との関係も築きながら関わりを深めている。病院が母体であることで、医療とも連携をとり、デイサービスとも協力して運営されている。入居者が自由に生活出来るように「ゆっくり、のんびり」という理念をもとに、本人に寄り添ったお仕合せでないケアを心がけており、日頃の職員の気付きから健康管理も行き届き、健康に長く入居されている方も多い。今後も地域の中心となる福祉事業所として一体的な発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に留まる場所に理念を掲示し職員も理念を熟知して共有し実践している。	5年前に運営が変わった際に作られたグループホーム独自の理念があり、運営方針とともに玄関やホールに掲示されている。日頃から目につくようにしており、年に1回程度は振り返りの機会ももって、以前は唱和も行ってた。季刊誌にも理念を載せてご家族にもお知らせしている。	理念が更に馴染み深いものになるように、短く分かりやすいものを検討されてはどうだろうか。職員皆と話しあったり、アンケートや意見を募ることで、さらに共有して実践に移されていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域でのボランティアや学校の行事に参加している。近隣中学の職場体験の受入等は積極的にっており、今年市のジュニアリーダー養成のためのボランティア実習も受け入れている。また2ヶ月に1度つつじの丘新聞を作りホームの様子などを伝え理解していただけるよう努めている。	昨年は管理者が組長も引き受けて地域清掃にも利用者と参加するなど、積極的に地域活動に関わっており、近隣の周知も進んでいる。一昨年の秋祭りは回覧板を使って一帯に案内して地域の方も招き、ボランティアにも来てもらい、大変盛況だった。発行の「つつじの丘新聞」も回覧して情報を伝えている。小中学校とも職場体験や行事の招待もあり、地域全体と馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でのゴミ拾い等の集まりに入居者様と一緒に参加するなどして少しでも顔なじみの関係が作れるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の福祉担当者や民生委員及び家族に参加をお願いし年間行事や月毎の行事予定、行事報告を行い、そこで参加者の意見を伺いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、行政、民生委員、家族代表らが参加しており、現状報告、行事案内などを行っている。外部評価結果に関しても取り上げ、参加者からの意見も活発に出されており、防災に関する意見から取組につながったこともあった。	家族が代表者のみの案内と参加になっているので、全員への案内と議事報告を行うことで、参加を増やしてはどうだろうか。また、近隣の事業者との相互参加や、行事との同日開催などで、より発展的な会議運営がなされていくことにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市の福祉担当者と連絡を取り合いホーム運営の相談や運営推進会議時に報告し協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市の担当課とは、制度に関して相談や質問などしており、電話で問い合わせることが多い。毎月の事業所連絡会の取りまとめを地域包括が担っており、そこで関わることもある。介護申請などは窓口を訪問し、運営推進会議の開催案内も持参して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進養成研修を受けた者が施設にて勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠については原則行っていないが安全面を考え必要に応じて施錠する事もある。	日中は玄関施錠もせず、夜間のみ防犯のために施錠する。徘徊癖のある方には見守りや付き添いで対応し、原則的に身体拘束をしない方針で、今までの事例もない。外部研修にも毎年参加し、所内での伝達も行い、スピーチロックについても周知している。以前あったヒヤリハットを踏まえて見守りを強化して対応している。	離設リスクに備えて見守り体制を強化しているが、近隣の住民や行政などとも、連絡が入るような徘徊ネットワークや協力体制がつけられることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止支援マニュアルを整備し管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意を払い虐待防止に努めている。		

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で成年後見制度についての勉強会を実施。必要性や活用方法について少しでも理解できるようにしている。	前回の外部評価の改善提案を踏まえ、内部での勉強会を行い、職員間の知識の習得を図った。今までに制度を利用した方はいないが、利用を検討するケースはあり、必要ときには外部機関とも連携して支援する体制である。制度に関する資料やパンフレットの準備もなされていた。	成年後見制度とともに、日常生活自立支援事業に関する研修や、勉強会が行われることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対し契約書及び重要事項説明書の内容を説明し理解と納得を図っている。契約書及び重要事項の内容変更時の不安や疑問があるときは説明を行い同意書を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情窓口を明記しユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。又、各居室に連絡ノートを置き意見や要望など記入できるようにしている。	月々の支払を基本的に現金払いでお願いすることで、家族に訪問機会を作ってもらっており、各居室にある連絡ノートや意見箱を使っても意見を聞き取っている。行事にも参加してもらったり、電話やお便り、2ヶ月毎の「つつじの丘新聞」でも報告を行っている。以前は法人からアンケートも行っていた。	家族により馴染みを持ってもらうために、発行している新聞にスタッフ紹介を載せてはどうだろうか。また、家族が参加しやすい取組として食事会や懇親会などが企画されることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から、職員の意見や提案などに耳を傾け朝の申し送り時にも意見や提案が出せるように機会を設けている。	職員が気づいたことなどあれば、ミーティング以外でも意見をあげたり、日頃からホーム長などに質問や相談などを行っており、備品の要望など対応できるものには積極的に対応している。会議は全員が参加して毎月開かれ、朝の申し送りなどでもお互いに意見を言い合って改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの特技が活かせるように行事担当を決めやりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集については、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず職員の希望に沿った勤務体制にしている。	20～60歳代の職員がおり、男女のバランスもとられている。職員同士もコミュニケーションをとりながら、担当係をもって、ホール内の飾り付けなど能力を活かした役割分担もしている。スキルアップのために研修の案内も行い、勤務として参加もされていた。休みのシフトなども協力しながら業務にあたっている。	職員同士でも協力しながら、シフト調整を行っているが、日々の休憩時間に関する、短時間取得など、メリハリの付いたスケジュールが作られることにも期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権尊重は理念に掲げ共同空間に掲示いつでも目につくようにしている。入居者、家族の思いを大切にしながら生活が続けられるように支援している。	ハローワークで開催された人権学習に職員が参加し、伝達、資料回覧も行った。昨年からの人権学習への取組を始めており、定期的に外部研修への参加も予定されている。	

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には積極的に法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成24年よりグループホーム協議会に加入し講習会等に参加できるように努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては家族、本人に施設見学をして頂いたり自宅や病院に出向き不安や要望などに耳を傾け関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っている事や不安や要望等に耳を傾けコミュニケーションが図れるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を伺い又、センター方式でアセスメントを取り入居者と家族が第一に必要なとしている支援を見極めより良いサービスが利用できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除等行ったり本人が出来る事を見守りながらして頂くことで生活の中での役割や達成感が感じられるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていくために家族にも出来る事をお願いし、いつでも面会や一緒に外出が出来るようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、自宅に帰りたいとの訴えがあれば外出の機会を設け一緒に出掛けたり馴染みの方に訪問していただけるようお願いしている。	支援が難しい時は家族に依頼して、住み慣れた自宅への外出や、懐かしい場所にお連れしている。併設のデイサービスにいる配偶者と面会をしたり、自宅に電話をかける支援なども行い、友人や知人の来訪もされている。ドライブのついでに少人数で乗りあわせて出かけることもある。	

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士気の合った方達が共に過ごせるようにホールにソファを置き憩いのスペースを設けたり集団レクリエーションを行い参加出来るようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した本人、家族の悩みや相談を聞いたり長期入院の方には時折お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や意向を聞きケアプランに取り入れ実行し評価、検討しているが意向を上手く把握出来ていないこともある。	センター方式を使ったアセスメントを行い、本人と家族に聞き取って情報の把握をしている。主に計画作成担当者が受け持ち、今後はデータ化して新しい情報の反映にもつなげる予定である。意思疎通が難しい方には家族から聞いたり、傾聴する態度を見せて表情や仕草などを観察しながら意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人ひとりのこれまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当を決め室内環境に努めたり毎日受持ちを決めバイタルチェックや気分の状態などに気を配っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の評価を行い必要に応じてプランの見直し等行っている。又急を要する時はその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。	3ヶ月毎のケアプラン評価時に、居室担当者を中心としたカンファレンスを開き、話し合っている。見直しも3~6ヶ月で行い、変化があった時には随時の見直しも行う。記録とケアプランを同じファイルに管理することで職員間での情報共有を進めている。	同じファイルに管理することで、プランの共有を図っているが、日々のプラン目標実施の記録を取ることでより詳細なモニタリングにつなげてはどうか。また、担当者会議に家族や外部の専門家の意見を照会することで、より発展的なチームケアにつながることも期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの行き来がいつでも可能でデイサービスからの入居者様の不安が少しでも和らぐよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の介護相談員の訪問を定期的にお願ひし入居者の相談等を聞いてもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診又は往診をお願いしている。	希望するかかりつけ医を継続してもらい、通院は原則家族に依頼するが、事業所が支援することが多く、同行して一緒に介助することもある。提携医の場合は2週に1回往診を受けている。医師との連絡などは看護師が主に担当し、受診時にも家族との情報共有を口頭で行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の記録や体温表に目を通し又、本人の顔色や動きを見て異常が無いか観察を行い必要時看護職に相談し適切に受診や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行い対応出来るようにしている。	今までに看取りを行ったことはなく、常時医療行為が必要な方の受入れは難しい旨を、契約時にも説明している。重度化の際には改めて説明を行い、必要があれば協力機関への紹介などを支援している。	今後の重度化や終末期にむけた支援の検討として、事業所指針を定めて、勉強会や研修などの検討がなされることにも期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けたり職員が数名おり急変時の対応も掲示している。		

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を実施して避難誘導など行い飲み水や食糧、カイロの備蓄をしている。	年2回の防災訓練の内1回は夜間想定訓練を行い、消防署には報告を行っている。訓練時に近隣にはお知らせを行い、避難誘導研修にも参加している。各居室に緊急時持ちだしの連絡ファイルを備え付け、スプリンクラーの設置、備蓄物の管理もなされていた。	訓練の際に近隣には案内を行っているが、参加の呼びかけも行って、徐々に協力体制が作られていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり尊重とプライバシーについて業務マニュアルを作成し活用している。又、言葉使いや声の掛け方に留意している。	情報管理に注意し、個人カルテなどの名前の記載などに気を配っている。接遇やマナーに関しては実践者研修を通して伝達を行っている。プライバシーにも配慮し、同性介助を希望する方にも対処している。	お便りや掲示などへの写真掲示に、口頭で同意を得ているが、書面でも利用目的などの説明や同意をとられることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の出来る利用者には本人の思いや希望を聞き活かされるよう支援し、出来ない人には表情など見て一人ひとり対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いないように本人の気持ちを大切に出来るだけ希望に沿えるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、自分の好きな好みの服を選んで頂き着用できるようにしたり外出時おしゃれが出来よう好きなバックなど持って出るよう声掛け支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態を見ながら食器洗いや盛り付けなど一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。	メニューと食材は業者に委託しており、職員が調理を行う。手伝える人には下ごしらえ、盛付け、配下膳などを手伝ってもらうこともあり、職員も同じものを一緒に食事している。それぞれに合わせてゆっくり時間をとって食事してもらい、適宜個別対応や、調理レクなどで皆で調理することもある。	職員も一緒になって和やかに食事が楽しまれているが、時には変化をもった食事の形態として、バイキング形式や、仕出しの利用なども検討されてはどうだろうか。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算をした食事を提供し食事量、水分量のチェックを行い、水分量の少ない利用者やその時の、健康状態に応じて水分補給をしている。必要に応じて塩分制限も行っている。		

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人で上手く出来ない利用者には自分でした後再度確認し必要時介助にて口腔ケア援助をしている。義歯はポリドントにつけ清潔を保っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導してトイレにて排泄が出来るように支援している。又、排泄チェック表を作成し、排泄状態の確認も行っている。	管理が必要な方には排泄チェック表を使って回数や状態を記録し、自立した方からは状態を聞き取って記録している。紙おむつを利用する方もいるが、声掛けやトイレ誘導で自立支援を働きかけている。失敗などがあっても周囲に見えないように、配慮して介助を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操時に参加の声掛けをし一緒に体操や軽い運動を行っている。トイレ時腹部のマッサージ等で便秘の予防にも取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿えるように考え対応しているが常に希望通りとは行かない。失禁などある場合はその都度必要に応じて対応している。	広めの家庭用ユニットバスで、脱衣場にはエアコンが付けられている。それぞれ、午後から夕方にかけて1日おきに入浴してもらい、ゆっくり時間もかけて入浴を楽しんでもらっている。個別でコミュニケーションの時間としても役立てており、拒まれた際も時間や曜日をかえて、本人の気分を大事にした対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ自由に休息できるようにしている。夜間眠れないときはホールのソファで会話をしたりして安心できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が記されているのを確認できるようにカルテに綴り確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で洗濯物を干したり畳んだり掃除、台所の手伝いなど一緒に行い又レクリエーションへの参加や散歩に出掛け気分転換が図れるように支援している。		

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で日頃行けないところに行ったり個別に本人の希望を聞き行けるようにドライブ等の計画を立て実行している。	天候の良い時は近隣の散歩など行き、月1回程度はデイサービスの車を利用して外出行事も行っている。最近では飯塚の雛人形見学にも行き、花火大会などの地域行事や花見などの年間行事も企画されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物に出たときは声掛けなど行い自由に買い物が出来るようにしている。必要なお金は家族の了解を得てホームで立て替えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人につなぎ自由に話せるようにしている。希望があればホームの電話を使い掛けている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節の絵や切絵を利用者と一緒に作り掲示している。	玄関から入って正面にあるウッドデッキの中庭を挟み、左右対称のU字型にユニットが配置されている。中庭の奥には玄関からも見えるよう桜が植えられており、季節の楽しみが傍に感じられる。ホールの飾りも職員が趣向を凝らして、変化をもたらしている。小上がりの和室と掘りごたつのスペースがあり、休憩やくつろぎの場所としても活用されていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり必要な時、ウッドデッキに椅子を置き自由に話せるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使っている椅子やテーブルなど自由に使えるようにしたりタンスの上やベッドに縫ぐるみを飾り居心地良く過ごせるようにしている。	部屋は花の名前がそれぞれつけられ、通常は木製ベッドが置かれるが、希望があれば介護ベッドを用意することも出来る。各居室に押入れ、タンスが備え付けられ、テレビや写真など思い思いの家具なども持ち込まれていた。部屋には家族との連絡帳が置かれ、職員との意見交換にも活かされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室は手すりを設け安全に歩行できるようにしている。ウッドデッキには、自由に行けるようにしている。洗濯物は利用者が干しやすいように低い物干し台を置いている。		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に留まる場所に理念を掲示し職員も理念を熟知して共有し実践している。	職員の目に留まる場所に理念を掲示し職員も理念を熟知して共有し実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのボランティアや学校の行事に参加している。近隣中学の職場体験の受入等は積極的に行っており、今年には市のジュニアリーダー養成のためのボランティア実習も受け入れている。また2ヶ月に1度つつじの丘新聞を作りホームの様子などを伝え理解していただけるよう努めている。	地域でのボランティアや学校の行事に参加している。近隣中学の職場体験の受入等は積極的に行っており、今年には市のジュニアリーダー養成のためのボランティア実習も受け入れている。また2ヶ月に1度つつじの丘新聞を作りホームの様子などを伝え理解していただけるよう努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でのゴミ拾い等の集まりに入居者様と一緒に参加するなどして少しでも顔なじみの関係が作れるよう努めている。	地域でのゴミ拾い等の集まりに入居者様と一緒に参加するなどして少しでも顔なじみの関係が作れるよう努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の福祉担当者や民生委員及び家族に参加をお願いし年間行事や月毎の行事予定、行事報告を行い、そこで参加者の意見を伺いサービス向上に活かしている。	市の福祉担当者や民生委員及び家族に参加をお願いし年間行事や月毎の行事予定、行事報告を行い、そこで参加者の意見を伺いサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市の福祉担当者と連絡を取り合いホーム運営の相談や運営推進会議時に報告し協力関係が築けるよう取り組んでいる。	日頃より市の福祉担当者と連絡を取り合いホーム運営の相談や運営推進会議時に報告し協力関係が築けるよう取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進養成研修を受けた者が施設にて勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠については原則行っていないが安全面を考え必要に応じて施錠する事もある。	身体拘束廃止推進養成研修を受けた者が施設にて勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠については原則行っていないが安全面を考え必要に応じて施錠する事もある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止支援マニュアルを整備し管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意を払い虐待防止に努めている。	高齢者虐待防止支援マニュアルを整備し管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意を払い虐待防止に努めている。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の該当者がいない為、学ぶ機会がなく研修にも参加していないが、資料を整備し職員一人ひとりが理解できるようにしている。	職員間で成年後見制度についての勉強会を実施。必要性や活用方法について少しでも理解できるようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対し契約書及び重要事項説明書の内容を説明し理解と納得を図っている。契約書及び重要事項の内容変更時の不安や疑問がある時は説明を行い同意書を頂いている。	利用者、家族に対し契約書及び重要事項説明書の内容を説明し理解と納得を図っている。契約書及び重要事項の内容変更時の不安や疑問があるところは説明を行い同意書を頂いている。
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情窓口を明記しユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。又、各居室に連絡ノートを置き意見や要望など記入できるようにしている。	重要事項説明書に意見苦情窓口を明記しユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。又、各居室に連絡ノートを置き意見や要望など記入できるようにしている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から、職員の意見や提案などに耳を傾け朝の申し送り時にも意見や提案が出せるように機会を設けている。	管理者は、日頃から、職員の意見や提案などに耳を傾け朝の申し送り時にも意見や提案が出せるように機会を設けている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの特技が活かせるように行事担当を決めやりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりの特技が活かせるように行事担当を決めやりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集については、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず職員の希望に沿った勤務体制にしている。	職員の募集については、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず職員の希望に沿った勤務体制にしている。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権尊重は理念に掲げ共同空間に掲示いつでも目につくようにしている。入居者、家族の思いを大切に安心して生活が続けられるように支援している。	入居者に対する人権尊重は理念に掲げ共同空間に掲示いつでも目につくようにしている。入居者、家族の思いを大切に安心して生活が続けられるように支援している。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には積極的に法人内外の研修を受ける機会を確保している。	職員には積極的に法人内外の研修を受ける機会を確保している。
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成24年よりグループホーム協議会に加入し講習会等に参加できるように努めている。	平成24年よりグループホーム協議会に加入し講習会等に参加できるように努めている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては家族、本人に施設見学をして頂いたり自宅や病院に出向き不安や要望などに耳を傾け関係作りに努めている。	入所に当たっては家族、本人に施設見学をして頂いたり自宅や病院に出向き不安や要望などに耳を傾け関係作りに努めている。
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っている事や不安や要望等に耳を傾けコミュニケーションが図れるよう努めている。	入所相談時より本人、家族の困っている事や不安や要望等に耳を傾けコミュニケーションが図れるよう努めている。
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を伺い又、センター方式でアセスメントを取り入居者と家族が第一に必要な支援を見極めより良いサービスが利用できるように努めている。	本人、家族の話を伺い又、センター方式でアセスメントを取り入居者と家族が第一に必要な支援を見極めより良いサービスが利用できるように努めている。
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調に合わせてながら楽しく暮らせるように入居者の出来る事は一緒に調理や配膳、洗濯、掃除など行い常に感謝の言葉を伝えている。	一緒に掃除等行ったり本人が出来る事を見守りながらして頂くことで生活の中での役割や達成感が感じられるようにしている。
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていくために家族にも出来る事をお願いしつつも面会や一緒に外出が出来るようにしている。	共に本人を支えていくために家族にも出来る事をお願いし、いつでも面会や一緒に外出が出来るようにしている。
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、外出の機会を設けたり訪問していたくようをお願いしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、自宅に帰りたいとの訴えがあれば外出の機会を設け一緒に出掛けたり馴染みの方に訪問していただけるようお願いしている。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにテレビを設置しホールで過ごせるようにしている。又レクリエーションなどで利用者同士が関わり合えるように支援し食事も皆で一緒にリビングで食べている。	利用者同士気の合った方達が共に過ごせるようにホールにソファを置き憩いのスペースを設けたり集団レクリエーションを行い参加出来るようにしている。
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した本人、家族の悩みや相談を聞いたり長期入院の方には時折お見舞いに行っている。	退去した本人、家族の悩みや相談を聞いたり長期入院の方には時折お見舞いに行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や思いをケアプランに入れそれに沿ったケアを職員が把握し努めている。	本人、家族の希望や意向を聞きケアプランに取り入れ実行し評価、検討しているが意向を上手く把握出来ていないこともある。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人ひとりのこれまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し一人ひとりのこれまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察し現状の把握に努めている。	居室担当を決め室内環境に努めたり毎日受持ちを決めバイタルチェックや気分の状態などに気を配っている。
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の評価を行い必要に応じてプランの見直し等行っている。又急を要する時はその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。	3ヶ月に1度介護計画の評価を行い必要に応じてプランの見直し等行っている。又急を要する時はその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所後併設のデイサービスで週1程度夫婦と一緒に過ごせるように工夫し時間を作っている又他の入居者も気軽に遊びに行けるように支援している。	併設のデイサービスとの行き来がいつでも可能でデイサービスからの入居者様の不安が少しでも和らぐよう努めている。
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の介護相談員の訪問を定期的にお願ひし入居者の相談等を聞いてもらっている。	社会福祉協議会の介護相談員の訪問を定期的にお願ひし入居者の相談等を聞いてもらっている。
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診又は往診をお願いしている。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診又は往診をお願いしている。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の記録や体温表に目を通し又、本人の顔色や動きを見て異常が無いか観察を行い必要時看護職に相談し適切に受診や看護が受けられるようにしている。	毎日の記録や体温表に目を通し又、本人の顔色や動きを見て異常が無いか観察を行い必要時看護職に相談し適切に受診や看護が受けられるようにしている。
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。	入院後入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行い対応出来るようにしている。	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行い対応出来るようにしている。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けたり職員が数名おり急変時の対応も掲示している。初期対応の訓練等は定期的に行ってはいない。	普通救命講習を受けたり職員が数名おり急変時の対応も掲示している。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火避難訓練を行い職員が対応出来るようにしている。消防署にも協力していただけるように連絡を取っている。	年2回の防火訓練を実施して避難誘導など行い飲み水や食糧、カイロの備蓄をしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩である事を念頭に人格を尊重し言葉掛けやケアに気をつけている。	一人ひとり尊重とプライバシーについて業務マニュアルを作成し活用している。又、言葉使いや声の掛け方に留意している。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらが良いか希望を聞いたり好きか嫌いかなど自己決定できる場合は本人に選んで頂いている。出来ない人には表情など見て一人ひとり対応している。	自己決定の出来る利用者には本人の思いや希望を聞き活かされるよう支援し、出来ない人には表情など見て一人ひとり対応している。
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調やその日の気分を確認しながら希望に沿った暮らしが出来るように支援している。	決して無理強いしないように本人の気持ちを大切に出来るだけ希望に沿えるように支援している。
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分のお気に入りの洋服や家族が買って来た服を着て頂き日中は洋服で過ごし夜は寝衣を着用して頂いている。外出時は自分に合ったおしゃれをして出掛けられるように支援している。	起床時、自分の好きな好みの服を選んで頂き着用できるようにしたり外出時おしゃれが出来るよう好きなバックなど持って出るよう声掛け支援している。
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態を見ながら調理の準備や盛り付けなど一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。	利用者の状態を見ながら食器洗いや盛り付けなど一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算をした食事を提供し食事量、水分量のチェックを行い、水分量の少ない利用者やその時の、健康状態に応じて水分補給をしている。	栄養士のカロリー計算をした食事を提供し食事量、水分量のチェックを行い、水分量の少ない利用者やその時の、健康状態に応じて水分補給をしている。必要に応じて塩分制限もやっている。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人で上手く出来ない利用者には自分でした後再度確認し必要時介助にて口腔ケア援助をしている。義歯はポリドントにつけ清潔を保っている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人で上手く出来ない利用者には自分でした後再度確認し必要時介助にて口腔ケア援助をしている。義歯はポリドントにつけ清潔を保っている。
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導してトイレにて排泄が出来るように支援している。	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導してトイレにて排泄が出来るように支援している。又、排泄チェック表を作成し、排泄状態の確認も行っている。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を軟菜にし食べやすいように工夫したり体操時に参加の声掛けをし一緒に運動を行っている。トイレ時腹部のマッサージ等で便秘の予防にも取り組んでいる。	体操時に参加の声掛けをし一緒に体操や軽い運動を行っている。トイレ時腹部のマッサージ等で便秘の予防にも取り組んでいる。
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回の割合で入浴を行い本人の希望に沿えるように考え対応しているが常に希望通りとは行かない。又、失禁などある場合はその都度必要に応じて対応している。	出来るだけ本人の希望に沿えるように考え対応しているが常に希望通りとは行かない。失禁などある場合はその都度必要に応じて対応している。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて自由に休息できるようにしている。夜間眠れないときは会話をしたりして安心できるようにしている。	本人の生活習慣に合わせて自由に休息できるようにしている。夜間眠れないときはホールのソファで会話をしたりして安心できるようにしている。
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が記されているのでカルテに綴り確認できるようにしている。又頓服薬を服用するときは状態変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が記されているのを確認できるようにカルテに綴り確認できるようにしている。
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにケアプランに反映し役割、楽しみごと、散歩などで気分転換が出来るように支援している。	日々の生活の中で洗濯物を干したり畳んだり掃除、台所の手伝いなど一緒に行い又レクリエーションへの参加や散歩に出掛け気分転換が図れるように支援している。

H25自己・外部評価表(GHつつじの丘)

自己	外部	項目	自己評価(そよ風)	自己評価(ひだまり)
			実践状況	実践状況
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩やドライブに出掛け花見、紅葉狩りや花火、お雛様などを見物に出掛けたり家族といつでも外出できるように支援している。	年間行事の中で日頃行けないところに行ったり個別に本人の希望を聞き行けるようにドライブ等の計画を立て実行している。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物に出たときは声掛けなど行い自由に買い物ができるようにしている。必要なお金は家族の了解を得てホームで立て替え日常は現金を所持されていない。	行事で買い物に出たときは声掛けなど行い自由に買い物ができるようにしている。必要なお金は家族の了解を得てホームで立て替えている。
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはしないが本人にきた手紙は渡し家族からの電話は本人につなぎ自由に話せるようにしている。希望があればホームの電話を使い掛けている。	家族からの電話は本人につなぎ自由に話せるようにしている。希望があればホームの電話を使い掛けている。
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節の絵や切絵を利用者と一緒に作り掲示している。	ホールの壁に季節の絵や切絵を利用者と一緒に作り掲示している。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて自由に使えるようにしたりコタツを準備して気の合う者同士が楽しく話せるようにしている。一人で過ごせるように居室はいつでも使えるようになっている。	ソファを設置したり必要な時、ウッドデッキに椅子を置き自由に話せるようにしている。
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使っている仏壇や椅子など自由使えるようにしたりタンスの上に飾り物を置いて居心地良く過ごせるようにしている。	長年使っている椅子やテーブルなど自由に使えるようにしたりタンスの上やベッドに縫ぐるみを飾り居心地良く過ごせるようにしている。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には名前を表示し廊下周りを含め手すりを設け安全に歩行できるようにしている。又、居室からホールが見渡せるようにしておりホーム内はバリアフリーになっている。	廊下、トイレ、浴室は手すりを設け安全に歩行できるようにしている。ウッドデッキには、自由に行けるようにしている。洗濯物は利用者が干しやすいように低い物干し台を置いている。